

会 議 録

1 会議名

令和5年度第7回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

(1) 令和4年度牧湯の里深山荘における市及び指定管理者の収支状況等について

(2)川上笑学館の今後の管理について

○自主的審議事項（公開）

(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和5年11月21日（火）午後6時00分から午後7時30分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、横尾哲郎

・板倉区総合事務所：関根グループ長

・事務局：牧区総合事務所 米川所長、小林次長（総務・地域振興グループ長兼務）、佐々木市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、藤井地域振興班長、田中地域振興班主事

8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

・会議の開会を宣言。

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。

【米川所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：横尾委員に依頼。
- ・報告事項である、(1)令和4年度牧湯の里深山荘における市及び指定管理者の収支状況等について、板倉区総合事務所より説明を求める。

【関根グループ長】

—資料No. 1に基づき説明—

- ・続いて、資料には記載していないが、(株)太平堂と協議中である、冬季間における営業時間の短縮について説明させていただく。新型コロナウイルス感染症法の位置づけが5類に移行したことによって利用客の増加も考えられるが、コロナ禍以前から冬季間は降積雪によって利用者が減少傾向にあるため、今冬の営業時間の短縮について協議を行っている。まず、営業時間は、日帰り入浴の終了時間を午後7時から2時間短縮し、午後5時までとする。レストランは、午前11時30分から午後2時までの昼食と、午後5時から午後7時30分までの夕食のうち、昼食のみの営業とし、夕食は営業しないものとする。営業日は、金曜日・土曜日・日曜日の週3日と、土曜日・日曜日の週2日の二案を検討している。なお、祝日は営業し、宿泊や宴会などの予約は柔軟に対応することとしている。期間は12月下旬から3月上旬の予定だが、現在協議中の案件であることから、本日はあくまで情報提供とさせていただき、正式に決定後、改めて報告させていただく。

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。
(質問、意見等なし)

【西山会長】

- ・質問や意見等がないため、一つ目の報告事項を終了する。続いて、報告事項(2)川上笑学館の今後の管理について、板倉区総合事務所より説明を求める。

【関根グループ長】

—資料No. 2に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【井上委員】

- ・今までどのような体験交流を行ってきたのか。また、資料には「体験交流や宿泊については、市内の他の施設で代替できる」とあるが、中身を全く代替することは可能なのか、具体的な内容を伺いたい。

【関根グループ長】

- ・体験交流については、山菜採り体験やホテルの観察、野菜畑のオーナー制度、稲刈り体験や蕎麦打ち体験などが挙げられる。令和4年度の実績としては、ホテルの観察は約20人、とうもろこしや枝豆、大根といった野菜畑のオーナーは10人であった。稲刈り体験は、新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、蕎麦打ち体験は3人が参加した。
- ・体験交流事業の代替施設として、沖見地区のアピール館や原地区のふれあい体験交流館、宿泊施設であれば深山荘を考えている。今後、川上地区で体験交流を行う場合、川上会館の利活用とともに、これらの施設も視野に入れながら協議を進めていきたい。

【飯田副会長】

- ・休止後の対応として、民間活用など様々な案も考えられるが、施設がなくなることで一段と地域が寂しくなることも懸念される。もちろん、川上地区の方が我々以上に考え出した答えだと思うが、市としても様々な対応をお願いしたい。

【関根グループ長】

- ・川上笑学館は、木造施設で耐用年数が22年のため、廃止・処分が補助金上は可能な施設であるが、まずは来年9月まで川上地区協議会と利活用について協議を行い、そこで具体的な案が出なければ民間活用の方向も探っていく。板倉区総合事務所産業グループで所管している施設の中で、ふれあい体験交流館、アピール館、木草庵などは地域の方で利活用を行っている。それらの施設を引き続き支援していくとともに、協議の中で川上笑学館を地域で利活用することが難しいとなれば、地域の方や地域協議会と協議を行い、方向性を検討していきたい。まずは、来年9月に利活用の最終結論

を報告させていただき、施設の将来について協議させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

【清水委員】

- ・例えば、地域の寄り合い所として使用しても差し支えないのか。

【関根グループ長】

- ・施設自体は農村体験宿泊施設となっており、その目的に沿わない場合は目的外使用も考えられる。一方、施設の使用料など、維持費を地域の方に負担いただく形になることから、施設を継続して使用できるか否かも含めて検討していきたい。

【西山会長】

- ・他に質問や意見等がないため、報告事項を終了し、板倉区総合事務所にはここで退席をしていただく。
- ・続いて、自主的審議事項(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」についてに入るが、まず地域協議会活動報告会の開催について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—参考資料に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程事務局から説明があったように、地域協議会活動報告会を開催する方向で進めたいと思うが、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

【高澤委員】

- ・令和元年度に開催した際は、何人程度の方が来られたのか。

【藤井班長】

- ・一般で参加された方は、13人である。

【西山会長】

- ・それでは、地域協議会活動報告会を開催する方向で進めたいと思うが、よろしいか。
(一同、異論なし)

【西山会長】

- ・続いて、地域協議会活動報告会の開催にあたり、具体的な日付や時間を決めたい。ご意見のある方から発言を求める。

【藤井班長】

- ・開催日については、2月上旬から3月上旬の間でお願いしたい。

【高澤委員】

- ・2月は灯の回廊も開催されることから、考慮した方がよい。

【小林次長】

- ・灯の回廊については、例年だと2月の最終土曜日に開催していたが、今年度は2月17日と2月24日の2日間の日程で開催予定である。区内の地区協議会と協議を行い、牧区は2月17日開催で準備を進めている。ちなみに、2月17日開催は、牧区、浦川原区、三和区、2月24日開催は名立区、大島区、安塚区、高士地区である。過去に高士地区での交通渋滞により牧区に来ることできないとの意見があったため、日にちを調整させていただいたところである。また、同月11日には、深山荘ファンクラブ主催のごんぞ飛ばし世界選手権大会も開催予定である。
- ・地域協議会活動報告会の開催については、担当課より2月上旬から3月上旬に開催いただきたいとの依頼があった。少し話が変わるが、現在上越創造行政研究所の関係で、地域の現状や課題を整理し、定住促進に向けたアイデアを出し合うワークショップを実施している。その協議内容が来年2月末に整理されるとのことである。地域協議会で今まで協議してきた内容などもまとめたうえで、前年度開催した形で牧振興会、牧区地域協議会、牧区総合事務所の三会で意見交換会を実施したいと考えている。それらを踏まえ、3月2日の土曜日、午後1時からの開催を事務局から提案させていただくが、いかがか。

【井上委員】

- ・三会との意見交換会は、一般参加者にも公開するのか。

【小林次長】

- ・地域協議会活動報告会終了後、三会での意見交換会の実施を考えている。

【西山会長】

- ・それでは、地域協議会活動報告会等を令和6年3月2日の土曜日、午後1時から、牧コミュニティプラザ2階集会室で開催することに決定してよろしいか。

(一同、異論なし)

【清水委員】

- ・地域協議会委員の定員については、変更あるのか。また、公募に係る具体的なスケジ

ルールは決まっているのか。

【藤井班長】

- ・牧区地域協議会委員の定員について、変更はない。また、具体的なスケジュールは決定していない状況である。

【飯田副会長】

- ・地域協議会活動報告会の内容としては、第5期牧区地域協議会の4年間の活動報告や、地域協議会委員の公募説明を行うという解釈でよろしいか。

【小林次長】

- ・そのとおりである。

【西山会長】

- ・事務局は開催に向けて準備を進めていただきたい。続いて、自主的審議事項について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

- ・配布資料は、地域協議会が提示した課題の一つである「子育て移住」の施策に必要な取組について、第6回牧区地域協議会でグループ討議の意見を項目ごとにまとめたものである。牧区を知ってもらい、移住してもらうには何をどのように対応するべきか、一つ目の「空き家」では、「空き家に住んでもらい、Uターン、Iターンを促す」、「すぐに住める空き家もあれば、雨漏り等ですぐに住めない空き家もある」、「空き家は個人の財産であることから、一步踏み込んだ情報発信は難しい」などの意見が挙げられた。二つ目の「体験」では、「空き家の話と切り離し、宿泊ではなく日帰りツアーを行う」、「四季を通じての農業体験を行う」、「農業体験は子どもだけでなく、親子一緒に参加してもらおう」などの意見が挙げられた。三つ目の「実施主体となるところ」では、「牧振興会に窓口となっていたいただきたいが、職員の人数が少なく、牧振興会だけに任せることは難しい」、「牧振興会に提案を持ちかけるにしても、予算や人的な問題もあることから、すぐに依頼することはよくない。牧振興会だけでなく、様々な方と話し合いの場を持ちながら牧区の今後を考えるなど、すぐに結論を出すのではなく時間をかけて話し合いを行うことが大切である」などの意見が挙げられた。今後牧振興会と意見交換会を実施する際、地域協議会として「こんなふうにご子育て移住を進めたらどうか」という具体的な取組について、ある程度整理する必要があると思われる。具体

的な取組として、空き家であれば、「総合事務所が市で実施している空き家バンク等の情報を収集していく」ことが挙げられる。体験であれば、牧区らしい体験や受入れ団体などが見える化していくとよいと考える。ちなみに、課題の一つである「農業・林業」の農業については、12月3日の日曜日、若手農業者で組織しているJA青年部等と牧区の農業振興について意見交換会を実施する予定である。

【西山会長】

- ・今程事務局から説明があったように、前回の意見に対する具体的な取組についてご意見を伺いたい。ご意見のある方から発言を求める。

【清水委員】

- ・冒頭の西山会長からのあいさつで、大浦安地域協議会委員研修会での講話がとても参考になったと話されていた。具体的な内容について、ぜひ伺いたい。

【西山会長】

- ・NPO法人ざいごうは移住者のみで組織されており、移住者がさらに移住者を呼び込むことで信濃町の人口が増加したとのことである。また、長野県全体で移住希望者が多いと聞く。各自治体が様々な方策で移住者を呼び込んでおり、行政の取組についても詳しく調べていく必要がある。

【米川所長】

- ・すぐに定住に踏み切れることは、なかなか難しいことだと思われる。田舎暮らしの楽しさや体験を行えるツールがあればよい。日頃から、民泊などを通して外部の受入れに携わっている佐藤委員からお話を伺いたいと思うが、いかがか。

【佐藤委員】

- ・新型コロナウイルスの影響で、学校単位の体験が減少していたが、今年度から少しずつ再開している。春は田植えや山菜採りを行い、目の前で天ぷらにするととても喜んでくれた。また、ごはんや水がおいしいと評判で、中学生の男の子はご飯茶碗4杯も食べていた。日頃当たり前に食べている物も、都会の方からすれば新鮮でおいしいことは確かである。以前、棚広へ稲刈りに来た親子が民泊を利用された。普段おかわりをしない子どもがおかわりをしている様子を見て、子どもの力は計り知れないと感じた次第である。さらに、タイやマレーシア、韓国など、外国の方も旅行や体験で来られている。移住とは少し異なるが、地元が賑わう方策となる。

- ・牧区は、わら細工や蕎麦打ち体験など、様々な体験をできる要素が豊かである。体験する方の意向にもよるが、体験メニューを組み立てることは可能だと考える。また、通年を通して大根や米などを作っており、草刈りや大根の種撒きなど、どの時期に来ても体験作業を行うことができる。以前、大学生たちが灯の回廊で、一般客に対して牧区の特産品を広くPRしてくれた。教育と絡めた体験なども行うことによって、地元の振興が図られると思われる。それらを踏まえ、我々も様々なことを改めて考えたり、訪れた方から意見を伺うことができればよい。

【西山会長】

- ・ざいごう通信でも、移住理由として過去に遊びに来て気に入ったとの意見もある。

【横尾委員】

- ・NPO法人ざいごうでは、空き家の情報を把握して移住希望者に紹介しているのか。

【西山会長】

- ・代表者が建築業も兼ねていることから、家賃交渉も行うとのことである。

【横尾委員】

- ・牧区地域協議会で検討していることに置き換えた場合、空き家情報は空き家バンクで把握するのか。

【藤井班長】

- ・確認したところ、現在空き家バンクに登録されている牧区の空き家は0件である。空き家バンクに登録しない限り、情報を把握することは難しい。

【横尾委員】

- ・空き家は個人の財産だが、空き家バンクであれば広く情報提供を行うことができる。そこをどのようにするか協議した方がよい。

【西山会長】

- ・「入居者の募集、家賃の回収を行い、家主は滞納や督促などの心配はない」、「修繕が必要な場合は、家主の負担にならない方法で対応する」とのことから、NPO法人ざいごうが大きく関わっていると見て取れる。

【井上委員】

- ・そのような法人を実際に牧区で創設することは難しい。今更だが、「子育て移住」という言葉そのものが難しいと感じる。子育てや移住に加え、様々な体験事業を含めても

う一度考え直してもよい。牧区は市街地に近いことから人口が流出してしまう一面もあるが、新幹線が開通して外部から人が来るようになったことを踏まえると、魅力的な体験事業として発信することも一つの案である。様々な体験を通して、まずは「牧区はいいところ」と感じてもらうことが大切である。

【小林次長】

- ・移住につなげることは大変難しく、空き家バンクでの情報収集も困難である。一方、井上委員が発言されたとおり、まずは牧区を知ってもらい、体験を通して交流人口を増やすことはできると思われる。また、佐藤委員が発言されたとおり、牧区には体験できる場所が数多くある。空き家や移住に関しては、なかなか意見が出にくいと思われることから、次回以降は体験を通して牧区を知ってもらうことを検討する方向で進めていきたいと考えるが、いかがか。

(一同、異論なし)

【西山会長】

- ・それでは、本日の自主的審議事項を終了する。続いて、その他連絡事項について、事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・令和5年度第2回牧区町内会長連絡会議の開催について
- ・令和6年上越市新年祝賀会の開催について
- ・各区の「地域活性化の方向性」について（保倉区、吉川区）
- ・「地域教育往来（第59号）」の配布について
- ・「牧区地域協議会だより（第59号）」12月25日号発行について
- ・次回地域協議会の開催は12月19日の火曜日、午後6時からとする。後日、案内文を送付するため、出欠についてご報告いただきたい。

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

(質問、意見等なし)

【西山会長】

- ・他に意見を求めるが発言がないため、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。